7/3 福井

ワクチン

県内市町配分減へ

集団接種 福井市 予約停止

新型コロナウイルスワクチンを巡り、福井県内の市町への配分量が減少する見通しとなっていることが2日、県などへの取材で分かった。都道府県などの大規模接種会場で使う米モデルナ製の不足を、市区町村向けの米ファイザー製で補う国の方針が影響。7月中旬以降の配分量は5日にも確定する見込みで、福井市が集団接種の新規予約を一時見合わせるなど、各市町は行方を注視している。

国は全国の自治体の希望量を集約し、おおむね半月先の配分量を都道府県に通知している。福井県によると、7月19日からの約2週間分として各市町は計287箱(1箱=1170回分)を希望していた。具体的な配分量は6月28日に通知予定だったが、2日までに確定したのは最低限配分される基本計画枠の52箱のみ。上乗せ分は5日にあらためて通知されるという。

国が今回、全国の自治体に配分するファイザー製1万600箱のうち、8千箱が基本計画枠で、残りを各自治体の在庫量などに応じて上乗せする予定だった。

一方、河野太郎行政改革担当相が6月30日、大規模接種会場にファイザー製約1700箱を回す方針を表明。前回配分で約3千箱あった上乗せ分は、今回は約900箱と大幅に減る。

配分量が不透明になったことを受け、福井市は市体育館、市防災センターでの集団接種の新規予約受け付けを6月24日から一時停止した。市の担当者は「配分量や時期が確定次第、速やかに再開したい」としている。

他の市町も配分量を見定めた上で、今後の予約枠を調整する構え。64歳以下への一般接種を本格化させる時期とも重なり、ある市の担当者は「接種体制が軌道に乗ってきたのに、ワクチン供給が滞る事態になれば冷や水を浴びせられた感じになる」と不安視している。

(取材班)